

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	資源化施設整備工事(北側)刈草剪定機破砕堆肥化施設	階数	地上1F
建設地	愛知県豊川市長草町美佐々木25番3 他18筆	構造	S造
用途地域	指定なし、法22条区域	平均居住人員	10人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,000時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2016年5月16日
敷地面積	10,262 m ²	作成者	中日本建設コンサルタント株式会社
建築面積	2,201 m ²	確認日	-
延床面積	2,201 m ²	確認者	-



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE=1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

音環境 温熱環境 光・視環境 空気環境

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.9

機能性 耐用性 対応性

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.2

生物環境 まちなみ 地域性

LR 環境負荷低減性

LRのスコア= 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.0

建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

水資源 非再生材料の 汚染物質

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.4

地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>0.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 14.7%</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0%</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料> なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出
 ④地域材の活用
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音				-	-	-	-	-
1.2 遮音				-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-
1.3 吸音				-	-	-	-	-
2 温熱環境								
2.1 室温制御				-	-	-	-	-
1 室温				-	-	-	-	-
2 外皮性能				-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-	-
2.2 湿度制御				-	-	-	-	-
2.3 空調方式				-	-	-	-	-
3 光・視環境								
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-
1 昼光率				-	-	-	-	-
2 方位別開口				-	-	-	-	-
3 昼光利用設備				-	-	-	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-
1 昼光制御				-	-	-	-	-
3.3 照度				-	-	-	-	-
3.4 照明制御				-	-	-	-	-
4 空気質環境								
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-
1 化学汚染物質				-	-	-	-	-
2 アスベスト対策				-	-	-	-	-
4.2 換気				-	-	-	-	-
1 換気量				-	-	-	-	-
2 自然換気性能				-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮				-	-	-	-	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				-	-	-	-	-
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	-
1 広さ・収納性				-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画	独自			-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-
1 広さ感・景観				-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	-
3 内装計画				-	-	-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-
3 衛生管理業務				-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震				3.6	0.52	-	-	3.6
1 耐震性			基準の25%増を確保	3.8	0.48	-	-	-
2 免震・制振性能				4.0	0.80	-	-	-
3 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.9	0.33	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②		カー鋼板:30年、コンクリート打放し:30年以上	5.0	0.23	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			外皮表し、床:コンクリート直均し30年以上	5.0	0.09	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			上位3種-給水(B)・汚水排水/雑排水(B)、Eは不使用	5.0	0.15	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-	-
2.4 信頼性				2.8	0.19	-	-	-
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-	-
3 電気設備	②		耐震クラス	3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法				5.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備				1.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり				4.3	0.48	-	-	4.3
1 階高のゆとり				4.6	0.31	-	-	-
2 空間の形状・自由さ			階高3.9m以上確保	5.0	0.60	-	-	-
3.2 荷重のゆとり				4.0	0.40	-	-	-
1 荷重のゆとり			1階壁長さ比率=0.10	4.0	0.40	-	-	-
2 荷重のゆとり			4500N/㎡以上を確保	5.0	0.31	-	-	-
3.3 設備の更新性				3.6	0.38	-	-	-
1 空調配管の更新性	②		内部仕上なし、表し配管	4.0	0.17	-	-	-
2 給排水管の更新性				3.0	0.17	-	-	-
3 電気配線の更新性			内部仕上なし、表し配管	5.0	0.11	-	-	-
4 通信配線の更新性			内部仕上なし、表し配管	5.0	0.11	-	-	-
5 設備機器の更新性				3.0	0.22	-	-	-
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22	-	-	-

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
Q3 室外環境(敷地内)								
1 生物環境の保全と創出	独自③		1.0	0.30	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		2.5	0.30	-	-	2.5	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	-	
			3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性								
LR1 エネルギー								
1 建物外皮の熱負荷抑制		該当なし	-	-	-	-	-	
2 自然エネルギー利用			-	-	-	-	-	
3 設備システムの高効率化								
集合住宅以外の評価(3a.3b)			-	-	-	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	-	
4 効率的運用								
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	3.0	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル								
1 水資源確保								
1.1 節水		節水型水栓や節水型便器を積極的に採用	3.4	0.15	-	-	3.4	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			4.0	0.40	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減								
2.1 材料使用量の削減			3.3	0.63	-	-	3.3	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			2.0	0.07	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.24	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自	外構:再生加熱アスファルト混合物、再生骨材	3.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			4.0	0.20	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	内部仕上なし、設備との錯綜を回避	2.0	0.05	-	-	-	
			4.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避								
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.6	0.22	-	-	3.6	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.32	-	-	-	
1 消火剤			4.0	0.68	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		発泡断熱材を使用していない	-	-	-	-	-	
3 冷媒			5.0	0.50	-	-	-	
			3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境								
1 地球温暖化への配慮								
1 地球温暖化への配慮	①		-	-	-	-	-	
2 地域環境への配慮								
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない	3.5	0.50	-	-	3.5	
2.2 温熱環境悪化の改善			5.0	0.25	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.50	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自		3.2	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制	独自	適切な駐車スペースを確保	3.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			4.0	0.25	-	-	-	
			3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮								
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.2	0.50	-	-	3.2	
1 騒音	独自		3.0	0.40	-	-	-	
2 振動	独自		3.0	0.33	-	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害チェックリストの過半を満たす、広告物照明がない	5.0	0.70	-	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

資源化施設整備工事(北側)刈草剪定枝破砕堆肥化施設

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				0.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				3.7
Q2-2	耐震性・信頼性	3.6	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.3	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:14.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$ の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 資源化施設整備工事(北側)

計画上の配慮事項	
総合	全設備を建屋内へ格納することで、周辺環境への影響を最小化している。
Q1 室内環境	該当なし
Q2 サービス性能	耐用年数の長い材料や防汚性材等を採用し、建物の維持管理に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	道路境界から後退した建物配置とし、可能な限り敷地境界沿いに植栽をすることで、周辺環境に配慮した計画としている。
LR1 エネルギー	LED照明等による設備システムの効率化を計画することで、エネルギー消費の低減に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	節水型器具を採用することで、水資源の保護に配慮している。
LR3 敷地外環境	「光害対策ガイドライン」チェックリストを基に、光害抑制に配慮している。
その他	-